

第4回 向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会 会議録

開催日時	平成29年1月27日（金）午前10時00分～12時00分
開催場所	向島学生センターセミナーハウス2階会議室
公開・非公開	公開
議題(案件)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 開会 ○ 議題 <ul style="list-style-type: none"> 1 これまでの検討状況報告 <ul style="list-style-type: none"> ・第3回検討会の内容確認 ・「向島ニュータウンまちづくりビジョンの策定に向けて」に対する意見募集結果の報告 ・ワーキンググループ（WG）の開催・検討状況の報告 2 向島ニュータウンまちづくりビジョン(案)について 3 今後のスケジュール ○ 閉会
資料	<p>資料1-1 第3回向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会 会議録</p> <p>資料1-2 「向島ニュータウンまちづくりビジョンの策定に向けて」に対する意見募集結果報告資料</p> <p>資料1-3 各ワーキンググループ(WG)の開催・検討状況報告資料</p> <p>資料2-1 向島ニュータウンまちづくりビジョン(案)の概要について</p> <p>資料2-2 向島ニュータウンまちづくりビジョン(案)について</p> <p>資料3 今後のスケジュール(予定)</p> <p>参考資料1 向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会 委員名簿</p> <p>参考資料2 向島ニュータウンまちづくり通信第4号, 第5号</p>

議 事 の 経 過	
発言者	発言の内容
会長代理	<p>■ 開会</p> <p>○ただ今から第4回向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会を開催する。</p> <p>○会長が欠席のため、会長代理が司会を行う。</p> <p>○本日はビジョンをほぼ完成させるための最後の検討会となる。</p>
会長代理	<p>■ 議事</p> <p>○事務局から本日の議事の議題の確認と資料の確認をしていただく。</p>
事務局	<p>(資料の確認)</p> <p>(議題1～3の確認)</p>
会長代理	<p>○最終回なので、まちづくりビジョン(案)についての議論に時間をかけたい。</p>
会長代理	<p>1 これまでの検討状況報告</p> <p>○議題1「これまでの検討状況報告」として、前回検討会、意見募集結果、各ワーキンググループ(以下WG)の検討状況を事務局から説明していただく。</p>
事務局	<p>(資料1-1, 1-2, 1-3について説明)</p>
会長代理	<p>○今の説明に対して質問はないか。(質問等, なし)</p>
会長代理	<p>2 向島ニュータウンまちづくりビジョン(案)について</p> <p>○次に、議題2「向島ニュータウンまちづくりビジョン(案)について」の説明を事務局にしていただく。</p>
事務局	<p>(1) 全体像について</p> <p>(資料2-1, 2-2について説明)</p>
会長代理	<p>○まず、全体像に関して質問を受けたい。</p>
委員	<p>◆ 「Ⅲ 目指すまちの姿」の「若年ファミリー」という用語について</p> <p>○「Ⅲ 目指すまちの姿」で「誰もが 生き生きと暮らせる 向島ニュータウン」を目指していろいろと取り組み、その最後が「若年ファミリー世帯が移り住</p>

<p>会長代理</p>	<p>み～」となっているが、多様な世代が住んでいるのがベースなので、若年ファミリーだけではなく、「高齢者も障害者も外国人も互いに支え合い」という言葉を加えた方が良いと思う。</p> <p>○また「若年」という言葉が気になる。「若年ファミリー」とは何歳くらいを指すのか。通常、社会的に34歳くらいまでを若年と考えると、初婚年齢が30歳を超えているので「若年ファミリー世帯」は数的に非常に少なくなる。恐らく、子育て世代の意味かと思うので、用語の使い方を検討してほしい。</p> <p>◆ IV-3「安心して子育てができるまちの仕組づくり」の説明文について</p> <p>○「IV 取り組んでいく方針・テーマなど」の「3 安心して子育てができるまちの仕組づくり」の枠内は、以前「セーフティネット」という言葉が入っていたのではないか。ここにも「若年ファミリー層」という言葉が入っているので、「子育て、教育、生活支援が充実して安心して子育てができるまち」等の言葉の方が捉えやすいと思う。</p> <p>○確かに「若年」という言葉は曖昧である。子育て世代に移り住んでほしいというのは大きな目標でもあるが、皆が支え合いながら次の世代にバトンをつないでいけるというイメージを強調するような文章を検討した方が良いのではないか。</p>
<p>委員</p>	<p>○先ほどの委員の意見も含めて3点ほど意見がある。1点目は、確かに「目指すまちの姿」としてこれだけ包括的な取組の話をしているのに、最後が「若年ファミリー」だけになると、結果が方針3と同じなので、方針1～7まで取り組むと最後に方針3が出てくるという不思議な状況になる。本当は「誰もが生き活きと暮らせる 向島ニュータウン」こそが目指し続ける方向性のはずである。しかし、これはスローガンなので、そのまま、むしろ下の矢印を「続く」という意味にして、まちづくりが継続するという話になると思う。いずれにしても、一番下の枠が「あがり」のような形になっているのは気になる。</p> <p>◆ V 推進体制について</p> <p>○2点目は「V 推進体制」の左側の枠の「向島ニュータウンにおいては～」の主語が分からない。右側の枠に「一方、住民は～」と書かれているので、左側は「京都市等行政機関は～」という言葉が対置されると思うが、今はそういう構造になっていない。そういう意味では、右側は「住民は住民主体で参加して頑張れ」というような内容が書かれているので、京都市等行政機関と協働するという話は、むしろ「京都市等行政機関は住民の主体性を尊重しつ</p>

事務局	<p>つ、パートナーシップでまちづくりに協力していく」というような文言になるのが自然だと思う。</p> <p>◆ 次の段階について</p> <p>○3点目は、4年が期限と書かれているが、終了時点でどうするのかという次の話も計画書に組み込まれるべきではないか。4年を終えた段階で何をするのか、検討会議で何を協議して、どうするのかという話もあって良いと思う。</p> <p>○「目指すまちの姿」の最後の部分は、「誰もが 生き活きと暮らせる 向島ニュータウン」を目指して何をすべきかということ、この部分でも明確にしたいと考え、京都市としても人口減少の中で外からの人口流入を目指すという方針があることから、まず、若年ファミリー層に移り住んでもらうことが持続可能なまちにしていく第一歩であることを明確にしておきたいという思いがある。</p> <p>○しかし、ご指摘のとおり、若年ファミリー層だけが流入すれば良いのかという問題もあり、その一言に集約されるのはどうかという議論があるのも分かるので、高齢者も含めた形で、すでに住んでいる方々の生活が向上し、若年ファミリー層も流入して、それによって総合的に地域コミュニティが充実したまちになっていくような表現の方向で考えたいと思う。</p> <p>○「V 推進体制」の左側の枠内の主語は、一見京都市に見えるが、検討会としてビジョンを進めていくには、住民団体の組織づくりや人材の発掘が必要なので、イメージとしては、検討会に参画している団体すべてがこのような形で考えるようになるのではないかと考えている。</p> <p>○「一方、住民は～」の部分は「京都市等行政機関と協働して」という表現よりも「京都市等行政機関は住民の主体性を尊重しつつ、パートナーシップを結びながら取組を進めていく」という、分かりやすい表現にしてはどうかというご指摘だが、それについてはご意見も踏まえながら表現を考えたい。</p> <p>○4年後にどうするのかというご指摘については、その後も推進会議は続くと思うので、そこでの議論になると思う。したがって、それについては明確なことは書けない。ただ「方針7 向島の将来を展望した土地利用等の見直し」の部分は4年で終わるものではないと思うので、引き続き取組を進めていくことも踏まえて、4年後に状況を見ながらビジョンを見直していくというような表現を織り込んでいく必要があるかと考えている。</p>
会長代理	<p>○ご指摘のあった部分は全体像として“顔”になるので、「目指すまちの姿」の一番下の文章をもう少し検討した方が良いというご指摘があり、いくつか</p>

委員	<p>の言葉が提案されたので検討していただきたい。</p> <p>◆ 方針3の「主なアクションプログラム・取組」について</p> <p>○方針の「主なアクションプログラム・取組」にはいろいろな内容が書かれているが、方針3の代表的な取組が大学生との交流だけであるはずがないので、もう少し実情に合ったものに変えてほしい。</p>
会長代理	<p>○後ほど細かい内容の説明があるので、それを受けながらその点も考えたい。</p> <p>○まとめると、「Ⅲ 目指すまちの姿」と「Ⅳ 取り組んでいく方針」の「3 安心して子育てができるまちの仕組づくり」の方針、アクションプログラムの文言を検討する。「Ⅴ 推進体制」の左側の枠内の主語を明確にすることと、説明では行政と事業者の両方が入っているようで、右側が住民のようだが、その点も見直す。また、Ⅲの文章に将来性も含めるかどうかも検討する。</p>
委員	<p>○「Ⅴ 推進体制」で一番欲しいのは京都市等行政機関の姿勢である。「住民の主体性を尊重し」という言葉と、かつそれを基にしながらパートナーシップの姿勢で行っていくということを書いてほしい。</p>
委員	<p>◆ さらなる検討会の必要性について</p> <p>○今さらというところもあるが、あえて申し上げるともう1回くらい検討会が必要ではないか。これまでの検討会で住民との本質的な議論がなされた記憶がほとんどない。検討会は、WGやタウンミーティングにおける住民の意見を最大限尊重してまとめていくのは当然であり、全体を見て最後にできたビジョンに責任を持つ役割がある。そういう仕組で作られている。しかし、あまりにも急いでいる気がするので、可能ならもう1回程度は検討会を開く必要があると思う。</p> <p>○それで、まとめの資料で気付いた点を2～3点述べたい。</p>
会長代理	<p>○これからビジョンの内容の説明を受けて、委員が指摘されたように議論に時間を割いて、その後に質問を受けるが、全体像に関する意見であれば、今ご発言いただきたい。</p>
委員	<p>◆ 「Ⅱ 現状（課題と資源）」の表現について</p> <p>○「Ⅱ 現状（課題と資源）」のところ、課題のタイトルが分かりづらい。ビジョンは住民が理解しやすいものでなければならない。例えば、「①人口・</p>

	<p>地域力」はコミュニティの特性，「②まちの機能・公共施設」は公共施設の整備状況等，「③利便性・暮らし心地」は「暮らしの利便性」，「④立地性・場所」は「立地性」という表現はあまり使わないので「立地の特性」の方が良いと思う。</p> <p>○＜課題＞のところでは，コミュニティミックスの抱える問題の克服と，公営住宅の整備・再生の2つが大きな課題だが，それらが重点課題として具体的に入っていない。例えば＜資源＞に「様々な住民活動」とあるが，コミュニティミックスが抱える問題を克服するための住民の活動があまり活発ではない現状に大きな問題があるという点が表現されていないと思う。</p> <p>◆ 「目指すまちの姿」の標語の表現について</p> <p>○「目指すまちの姿」の標語の「生き活き」は平仮名にした方が良いのではないか。「暮らし心地」は「暮らしやすさ」の方が分かりやすいと思う。「多文化」は下に説明があるが，説明が必要な標語は標語として分かり難い。「多世代共生」は当然のことで表現も硬すぎて分かりづらいと思う。</p> <p>◆ 「Ⅱ 現状（課題と資源）」の②について</p> <p>○「Ⅱ 現状（課題と資源）」の②の＜課題＞に「公園や共用施設の魅力の低下」が挙げられているが，中央公園に限って言えば，40年経った向島ニュータウンの施設の中で唯一価値が上がった施設と思う。多くの住民，高齢者が多いが朝夕散歩をしており，昼間は園児が遊び，決して魅力が低下したには該当しないので，説明のないところは修正をお願いしたい。いずれにしても，もう少し全体を見る議論が必要だと思う。</p> <p>○ご指摘いただいた点はWGで検討していただいたと本文にあるが，その中で対応策が出ていたと思うので，全体像についてはここまでとして，ご指摘いただいた文言等は事務局で見直して確認し，最後に修正すべきところは修正して分かりやすい言葉にしていきたい。</p> <p>○次に本日のメインテーマに移らせていただきたいが，しっかりと議論しなければならないところなので時間を取りたい。</p> <p>(2) ビジョンの内容について</p> <p>○それでは，ビジョンの内容の説明をしていただく。</p> <p>(資料2-2 P20～について説明)</p> <p>○資料2-2の冊子を初めて見られた方がほとんどだと思うが，資料2-1は，30回を超えるWGでテーマ別に意見を出していただいた時に使われていた。特</p>
会長代理	
会長代理	
事務局	
会長代理	

委員	<p>に最終の12月、1月のWGでは各テーマに関連して、文字、取組の重点、段階、主体等についても相談していただき、文字の修正や補足等、様々な議論が行われた。それをできる限り入れたものが資料2-1である。したがって、資料2-1で担当されたところに関して気付かれた点があれば、資料2-1に基づいて発言していただいても構わないが、資料2-2の方針やテーマ、アクションプログラム、細かい数字、具体的な取組等の内容は資料2-1と同じであり、「具体的な取組」だけでも100を超える資料2-2の内容が冊子になって、市会にも提出することになることをご理解いただき、全体を見ていただくことが本日の目的である。</p> <p>○最後の「推進体制」は後ほど議論したい。それ以外の「方針1」～「方針7」はWGで検討されたものをまとめているが、ここについて質問はないか。図は事務局で作ったものなので、まだ議論されていない。</p> <p>◆ 喫緊の課題について</p> <p>○1月に高齢者障害者の部会に出席した際は「重点課題」の他に「緊急」があった。前回の検討会議でもエリアマネジメントのところで「重点課題と喫緊の課題に分けて整理する」という話があった。2週間前のWGでも「先に取り組むべきもの」があったと思うが、それがなぜ外れて、4年間で行う「重点課題」だけになってしまったのか。</p>
事務局	<p>○人命に関わる「防災・防犯」のところに書かれているような取組、あるいは、子どもの成長に関わる、あまり時間をおいて対応すべきではない取組等については「喫緊」と表現し、一方、4年間で時間はかかっても、必ず取り組みたい将来に関わることは「重点」と表現している。</p> <p>○ところが、取組の段階として実施調整段階、継続検討段階、将来構想段階を明示しているので、例えば「喫緊」という項目であっても、まだ検討が必要ということで「将来構想段階」となると分かり難いという議論があった。そこで今回、P20の(1)で説明しているように、「地域の活性化を図るため不可欠なもの」という元々の重点課題の定義に加えて、元は「喫緊」として置いていた「子どもの育みにおいて重大な影響があるもの」「人命の安全に大きく関わるもの」の2点も「重点」として表現することとしている。</p>
委員	<p>◆ 主体としての京都市の責任と庁内連携について</p> <p>○今の説明で理解したが、「重点課題」だけで53あるので、どこから取り掛かるのか、優先順位をつけることが必要だと思う。</p>

	<p>○その中で、取組の中心となる主体の住民組織は大変だと思うが、もっと大変なのは53ある「重点課題」の中の47で、取組の中心となる主体に「京都市」が記載されている点である。この責任はどこがどのように担っていくのか、伏見区の区役所も含まれるのか等、いろいろと考えられる。</p> <p>○課題が総花的に出ている中で、この場に本庁では都市計画局だけが出席されているが、今後、教育委員会や新しい子ども若者はぐくみ局、長寿社会部、障害保健福祉推進室、文化市民局等、いろいろな課の方々が協力して進めていかなければ“絵に描いた餅”になってしまう。都市計画局がこの課題をすべて取りまとめて、予算についても、必要な時に都市計画局の計画の中で向島のための予算として取ってくるような仕組みにするのか、それとも、具体的に集会所の中に高齢者の拠点となるような居場所づくりをするとなった時に、長寿社会部の一事業として予算化するのか、その辺りはどのように考えられているのか。</p> <p>○実際のアクションに向けて住民と話をする際、各担当部局の人も一緒に住民の話を聞いていただかなければ前に進まないのではないかと危惧している。したがって「京都市」という文言の中で、どの局のどの担当者が一緒に考えてくれるのかということも示してほしい。</p> <p>○それらの進め方について、今後、具体的にどのように動いていくのかということも聞かせていただきたい。</p> <p>◆ 「方針4」の本文について</p> <p>○もう1つは細かい点だが、P40の「方針4」のサブタイトルの「高齢者・障害者・中国帰国者等も生き活きと暮らし」を見て、下の文章を読むと「生活に困難を抱える住民」が高齢者や障害者のことで「その一方で、中国帰国者や外国人」が「多様な住民」と読み取れるので、「その一方で」という文言を外して、「中国帰国者や外国人をはじめとする」の中に高齢者や障害者も含めて「多様な住民の生活があり」という表記にした方が分かりやすいと思う。</p>
会長代理	○アクションを起こす担当部局との連携についての質問である。
委員	<p>○京都市都市計画局から参加しているが、この検討会は行政からは京都市都市計画局と伏見区役所、学校の方からも参加していただいている。いよいよビジョンができて、100を超える内容があり、その多くに京都市は関わると書いているので、今後は、庁内でもしっかりと連携しなければならない。</p> <p>○ただ、初めての取組なので、書いている内容について、行政として実現していくためには、まず、制度的な検証が必要である。多くの意見を頂いた中で、</p>

	<p>できる限り可能性を盛り込むというスタンスでこの会は進められてきたので、挙げられた可能性に関して、京都市として関わるべきものは主体のところに「京都市」と書かせていただいた。</p> <p>○これを具体化する時に、どういうセクションがどう関わるのかという点で、我々としてもしっかりと庁内で連携して取り組むべきだと思っている。したがって、制度的な検証や法律的な検証、さらに予算的な裏付けも必要であり、場合によっては京都市としての体制も含めてになるが“絵に描いた餅”にならないように、しっかりと取り組んでいくものをご理解いただいて、今後とも一緒に取り組んでいただきたい。</p>
委員	<p>○心強い発言を受けて少しは安心できるが、やはり行政機関は縦割りなので、横としっかり連携してほしい。同じフロアと同じ部内でも担当間の連携が取れずに情報が共有されていないことがあるのに、局を越えての連携ができるのか。ここでまとめたビジョンをそれぞれの局に上げた時に、「聞いていない」と言われることだけはないように、きちんと通ったものとして進められるようお願いしたい。</p>
会長代理	<p>○ビジョンを作る段階で全く可能性のないことは書けないということで、京都市からの文言の調整等、WGでは苦労されたと思う。できる限り、京都市のいろいろな部署に関わってもらえるような形で、次のアクションを起こす出発点によろやくたどり着いたと思う。</p> <p>○大事なことは、どのようにアクションに結び付けていくかということである。住民が主体となって行政や事業者と一緒に取り組みながら、行政の縦割りを越えてもらわなければならないので、来年が本当に重要だと思う。今、行政から心強い言葉を頂いたので、具体化のための制度の検証や、その検証結果が可能となれば予算の裏付けに着手する方向で進めていただきたい。</p>
委員	<p>◆ 子育て世代、若者世代の文言の統一について</p> <p>○「子育て若者世代」とか「若年ファミリー世代」等の言葉が混在しているので、単身者や結婚しても子どもいない人を先に挙げて、その後に子育て世代を挙げて「若者・子育て世代」と統一した方が分かりやすいと思う。</p> <p>◆ 「推進体制」の図について</p> <p>○「推進体制」の図が分かり難い。「取組主体」は「京都市」と「住民団体」となっているので、この表現を基に、全体の「推進体制」は住民と行政というシンプルな形で表せないか。それを基に最初の図を、住民と行政という大</p>

<p>会長代理</p>	<p>きな括りで分けたような表現にすると分かりやすいと思う。</p> <p>○後半は、P4の「V 推進体制」の図が分かりづらいという意見である。この図ももう一度見直していただくが、行政と住民が組むころと、包括や社協等の事業者も関わると思う。もう少し分かりやすいように、検討していただく。</p>
<p>委員</p>	<p>◆ 「方針1」の拠点づくりについて</p> <p>○「方針1」の「拠点づくり」について、クロスできるような工夫が必要である。以前、ソウルの社会福祉施設を訪ねた際、1階や地下にプールやジムがあって、若い人たちがたくさん来ていた。有料だが、非常に賑わっており、その中で母子家庭への支援や様々なセルフヘルプグループもあった。そのように、いろいろな拠点をクロスさせることを再度考えてほしい。</p> <p>◆ 自治機能の活性化について</p> <p>○推進体制に関して一番重要なのは、見守りや共に生きていくということに関して、自治機能の活性化が不可欠だということであり、これまで何度も言われてきたが、どこに出ているのか。推進会議も役員の会議になると“頭でっかち”になるが、向島に限らず、今、自治会を抜ける人が増えている。P70の「推進テーマ2」に関わることもかとも思うが、これは重要な課題である。</p> <p>○「暮らし心地」という言葉よりも「住み心地」の方が一般的でわかりやすい表現ではないか。その点も検討してほしい。</p>
<p>会長代理</p>	<p>○今後のことについて、先ほど委員から「これで終わるのは困る」という意見があったが、検討会自体は3月末まで続くので、それも含めて後ほど事務局より今後の予定を説明していただく。他にご意見はないか。</p>
<p>委員</p>	<p>○簡単なミスの修正については、後ほど指摘させていただく。</p>
<p>委員</p>	<p>◆ 「アクションプログラム 17-1」の進め方について</p> <p>○「方針7」の「アクションプログラム17-1 コミュニティミックスの観点を踏まえた公営住宅をはじめとするニュータウン内住宅全体のあり方の検証」は京都市だけではなく、住民側と相談しながら進めることになると思うが、気になるところである。</p>
<p>会長代理</p>	<p>○資料2-2のP67だが、これは住宅の使用の規則を変更するという意味だったのでないか。</p>

事務局	○住宅全体のあり方として、まずは大きな枠組みを検証するので、京都市だけで検証することとしていたが、検証後に見直しをすとなれば、当然、住民の方々と一緒に進め方等を考えていくことになる。この部分に関しては、その前の段階ということで京都市だけにしている。
委員	○それなら、文章中に「住民と協議しながら～」という言葉を加筆してほしい。
事務局	(承諾)
会長代理	○土地の用途変更も必要なので、それを京都市が行ってからになるのか。
委員	○用途変更の段階から住民と話をしなければならない。用途変更をした後では、住民にとっては決まってしまった話になってしまう。
会長代理	○他の部分で、跡地利用に関しては一緒に検討するとしているところもあるので、ここについては今から住民を入れるかどうかも後ほど検討したい。
会長代理	<p>(3) 推進体制について</p> ○「推進体制」については、エリアマネジメントのWGで話し合っていたが、それが原案として出ているので、多くの委員の方は初めて見られたと思う。これはこれからきちんと考えていかなければならないことであり、次の合同WGで本格的に相談していただく予定になっているので、ここでは大きな枠組みで問題がないかをチェックしていただく。具体的にどのような形で動かすか、組織をどうするか等はその後の課題として、体制を作るための会議として、それで進められるかどうかだけを確認していただきたい。
委員	<p>◆ 向島城の石碑の必要性について</p> ○アクションプログラムの1-1-2は進んでいるように聞いているが、向島の象徴は向島城なので、地域の誇りやイメージアップを考えると歴史的、中心的なものとして向島城の石碑を建てていただけるようお願いしたい。
会長代理	○文章の中に「碑」という言葉が入っているので、そこに石碑のイメージがあるのではないか。そこに入っていればそれに向かって行くと思う。

委員	<p>◆ 表現の問題について</p> <p>○「暮らし心地」ではなく「住み心地」であるといった指摘があったが、一般住民も検討会に参加しており、間違っただけの言葉遣いをするかもしれないと思いい、発言できなくなる。</p>
会長代理	<p>○本日は市会に出す資料を作成するための議論をしているので言葉の問題が指摘されるが、まちづくりに関しては、言葉の問題ではなく、何をすることが重要である。これから本格的に「どのように動かすか」という議論になると、言葉以前のところでもう一度きちんとアクションを考えなければならない。</p> <p>○「推進体制」の大枠がこれで良ければ、この大枠を踏まえた上で、具体的なことは今後の検討会で議論し、特に、合同WGで皆さんに意見を出していただくようにしてはどうか。</p>
委員	<p>◆ 「推進テーマ3」アクションプログラム3について</p> <p>○「推進テーマ3」の「アクションプログラム3」については先日WGで議論があったが、「自治機能の向上」や「自治力の活性化」はここに関わる大事なキーワードだと思うので、入れた方が良く思う。</p> <p>◆ 庁内連携について</p> <p>○先ほどの発言はよく分かるし、大事な話だと思う。積極的な発言をされたが、現実問題として、庁内でも各部署と連携しながらプログラムを考えていかなければならないが、なかなかそのような状況にならない。実際に動き始めたら、他の課から「なぜ、このようなことを書いているのか」という意見が出てくるのはよくある話である。現実には推進委員会を作っていく時は「書いてあるからやってくれ」という話をするしかないのです、こちらの力が継続していくことが大事であること確認しておいた方が良い。</p> <p>○それも含めて、心強く言われた庁内連携については、【ビジョンの読み方】のところに、京都市は「各部署・学校」と書いてあり、本来はそれで十分だが、「庁内連携」や「横断的に取り組む」という話があると嬉しい。本当はこの構想の中に「京都市側の仕組づくり」という話があっても良いくらいだが、それは無理なので、一言でも「京都市は向島の問題については全庁を挙げて」とか「横断的に連携して」というような文言が入っていると、人事異動で担当が変わっても「ここに書いてある」と言える。その点だけをお願いしたい。</p>
会長代理	<p>○本日はたくさんのご指摘があったので、それらを見直す中で、その点も検討</p>

事務局	<p>していただきたい。</p> <p>○終了時間が来たので、事務局より今後のスケジュールを説明していただく。</p>
会長代理	<p>3 今後のスケジュールについて (資料3について説明)</p> <p>○冒頭で私が「本日が最後の会議」と述べたために、継続を望む意見が出たが、この検討会議の体制は3月末まで続く。その中で合同WGも行われるので、必要に応じて会議の開催を検討したいと思う。</p> <p>○本日の会議でビジョンの原案についてはご理解いただいたと思うが、これを実行していくためには、もう少し検討や理解を深める必要があると思うので、2月25日の合同WGの時にそれについて話し合いたいと思う。</p> <p>○今後のスケジュールについて質問はないか。(質問等、なし)</p> <p>○それでは、これで本日の議題はすべて終了とする。</p>
事務局	<p>■ 閉会</p> <p>○長時間にわたり、議論をしていただき、感謝申し上げたい。</p> <p>○本日頂いた修正意見等については反映させていただくように考えているが、最終の文言等については、会長及び事務局にまずは一任していただきたいと思う。</p> <p>○今後、検討会としての意見を一定取りまとめて、さらに京都市が関連する部分もあるので、2月上旬に京都市会に報告した上で、3月中には完成版を作成したいと考えている。完成前に、委員の方々にはメールか郵送にてご確認いただく機会を取りたいと考えている。</p> <p>○検討会の開催は今回が最終だが、最終案の確認、まちづくり通信の発行、合同WG、来年度の実施体制の調整等、検討会事務局としても継続し、検討会の活動は年度末までとなっているので、引き続きよろしくお願ひしたい。</p>
会長代理	<p>○それでは、ご協力に感謝申し上げて、第4回向島ニュータウンまちづくりビジョン検討会を終了させていただく。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>